総社の巨匠 書家 高木聖鶴さん 逝く

総社を拠点に書道の振興と「かな」美の追求に尽力

筆を手に取る在りし日の高木聖鶴さん（平成16年撮影）

　総社市名誉市民で市内在住の書家、高木聖鶴（本名・郁太）さんが、2月24日、逝去されました。

　高木さんは独学で書の道を歩み始め、昭和22年に岡山県出身の書家、内田鶴雲に師事し、「かな」書に取り組まれました。昭和40年代初めからは書の道一筋に励まれ、日本芸術院賞や日展内閣総理大臣賞など多くの賞を受賞。平成18年には、文化功労者に選ばれ、平成25年には文化勲章を受章されました。また、日展審査員や日展顧問などの日本芸術の要職も歴任。書道の振興と「かな」美の追究に挑み続けるとともに、総社市内に活動拠点をおき、公民館で後進の指導にあたるなど、総社市の書の振興にも尽力されました。

　「これからもいい作品をつくるため、生涯かけて勉強したい」。平成26年の市民栄誉賞受賞時、このように述べていた高木さん。その言葉どおり、93歳で生涯を終える直前まで、筆を手にされていました。絶筆の書は、曹洞宗の開祖である道元の和歌。筆ペンで最後の一字まで力強く書かれていました。

　市役所に設けられた記帳所には多数の市民が訪れています。氏の書き記してきた優美な「かな」書と、凛として筆を握る姿は、これからも多くの人に語り継がれていくことでしょう。

　謹んでご冥福をお祈りいたします。

写真で振り返る高木聖鶴さん

公民館の書道講座で講座生の指導にあたる

名誉市民に推戴

なんば・みちこさんの詩を揮ごう。鬼城山ビジターセンターに展示

競書大会表彰式で小学生と

文化勲章を受章

文化勲章受章記念に総社吉備路文化館で開催された高木聖鶴書展で作品を鑑賞。現在、同館では追悼展示中

日本芸術院賞を受賞した「春」（日本芸術院蔵）

◆主な受賞暦（書道関係）

■昭和 48 年
　改組第５回日展で「萬葉のうた（天離る（あまざか））」が特選を受賞

■昭和 61 年
　第 18 回日展で「春と秋」が日展会員賞を受賞

■平成３年
　第 23 回日展で「古今和歌集抄」が内閣総理大臣賞を受賞

■平成７年
　第 26 回日展（平成６年）に出品した「春」により、日本芸術院賞を受賞

◆その他

■平成　４年　三木記念賞
■平成　５年　岡山県文化賞
■平成　６年　紺綬褒章
■平成 10 年　勲四等旭日小綬章
■平成 12 年　第１回福武文化賞
■平成 16 年　総社市名誉市民
■平成 18 年　文化功労者
■平成 25 年　文化勲章
■平成 26 年　総社市市民栄誉賞